

就労準備発

「就労経験がなく何から始めたらいいかわからない」、「働くことに自信が持てない」等の悩みを抱えている方に、様々なプログラムを提供し、就労までをサポートします。就労準備では、一般企業の協力のもと、内職やボランティア活動を行っています。「実際に就職する前に、働くイメージを持ちたい」という方が多く参加しています。

✕ 就労体験レポート ✕

株式会社 エース商会

令和8年1月から毎月書類封入作業が始まりました。事務員さんが業務中に行っていた作業で、「助かります」という嬉しいお言葉をいただきました。



株式会社 エーゼットファクトリー

毎年12月にカレンダーの封入、宛名シールを貼る作業を行って6年目になります。皆、緊張感や責任感を持って取り組んでおり、良い就労訓練となっています。



ドトールコーヒーショップ船橋駅南口店

週に1回、お店の食器返却口の整頓と、バーガー袋折りなどの作業を行っています。接客に苦手意識があったメンバーも、「またやってみたい」と継続的に参加しています。



編集後記

さーくるが市役所別館から、船橋商工会議所会館に移転して、令和8年1月末で7ヶ月が経ちました。JR船橋駅や京成船橋駅から近くなったため、多くの相談者から行きやすくなったという感想をいただくようになりました。また、通りかかった方から、どのようなことができる施設なのか聞かれることもあります。人通りの多い場所に移転したので、人々の目に留まり関心を引きやすくなったようです。この立地を活かして、一人でも多くの方に適切な支援が届くよう、移転を機に職員一同、気持ちを新たにしました。今後もより良い支援ができるよう職員一同で取り組んで参ります。



【編集・発行】船橋市「保健と福祉の総合相談窓口さーくる」(船橋市委託事業 社会福祉法人生活クラブ)

所在地：船橋市本町1-10-10 船橋商工会議所会館1階

TEL : 047-495-7111 FAX:047-435-7100

E-mail : circle@kazenomura.jp ホームページ : <https://funabashi-circle.jp>

さーくるHP
二次元コード



(令和7年度2号)

令和7年度
2号

広報さーくる



内容

- ・ひきこもり支援
- ・住まい調整会議
- ・地域連絡調整会議
- ・市民まつり
- ・クリスマス会
- ・就労準備発
- ・編集後記

「元ひきこもり当事者が運営する「カフェコッソリ」の紹介

内閣府の調査によると、15~64歳の生産年齢人口のうち、約146万人、実に50人に1人がいわゆる「ひきこもり」状態にあると推計されています。こうした状況を受け、船橋市でも多様な取り組みが進められています。今回取材したのは、船橋市高根台にあるカフェ「カフェコッソリ」(高根台4丁目22-6)です。ここで働くスタッフは全員、元ひきこもり当事者。オーナーは、船橋市内で日中一時支援事業所「ララホーム」を運営するNPO法人の代表、山田賢明さんです。

代表の山田さんは、元ララホーム職員で適応障害などの闘病経験がある山中さんの「いつかカフェで働きたい」という夢を形にしようと、令和6年9月に「カフェコッソリ」を立ち上げました。現在、山中さんは「カフェコッソリ」の店長を務めています。

副店長の川奈部さんは、ひきこもっていた頃、母親に連れられて行ったカフェが「きっかけ」でラテアートに興味を持ったそうです。お店では、驚くほど可愛い「3Dラテアート」を楽しめます。看板メニューの一つ、「ビーガンキーマカレー」を運んできてくれたスタッフの堀内さんは、拒食状態で長く家に閉じこもっていた経験があり、久しぶりに外出した際、日光で火傷するほどだったそうです。



お店のメニュー表には、「闘病の軌跡」という題名でスタッフそれぞれの経験が綴られています。スタッフの皆様は、いろいろな葛藤を抱えてきたと思いますが、木のぬくもりと陽の光に満ちた店内は、明るい顔でいっぱいでした。



今では、ひきこもり以外にもいろいろな悩みを抱える方がカフェを訪れるそうです。無料で食事を提供する「毎日タダ飯」や、週1回のイベントなど、地域に開かれた取り組みも続いています。「支援する/されるとい壁をつくらない」という山田さんの言葉どおり、カフェコッソリは、誰にとっても安心して過ごせる場所だと思いました。

〈ひきこもり家族教室の開催〉

令和7年9月9日、船橋中央公民館にて第1回ひきこもり家族教室が開催され、16名のご家族が参加されました。前半はテキストをもとに千葉県精神保健福祉センターの岡東医師に講義をしていただきました。ひきこもりは誰でもなる可能性があり、本人は自分を責めたり、不安や焦りをもっていることが多いため「安心」を感じてもらうことが大切であるとの説明を受け、安心できる関わり方について考えました。後半は、千葉県公認心理師協会の石川心理士に進行を依頼して交流会を実施しました。5人程度のグループに分かれてひきこもっている家族についてのお悩みを共有しました。共感、理解が得られたことでご家族の様子に活気が戻ったように感じられ、改めて思いを語ることの大切さを実感しました。参加者へのアンケートには「機会があればまた参加したい」と回答された方が7割以上いらっしゃり、家族教室への期待が感じられました。

ひきこもりの方やご家族の置かれている状況や背景は多様であるため様々な視点での支援が必要です。支援機関のみならず、地域で支える仕組みづくりが求められています。



さーくるに寄せられる相談の中で昨今、確実に増えているのが「住まい」の相談です。

そこで令和6年11月より「住まい相談支援員」を配置するなど、住まい支援の強化に取り組んでいます。

その新たな取り組みの一つが「住まい調整会議」の開催です。

住まいに関する困難ケースについて、船橋市社会福祉協議会や居住支援法人、シェルター事業者、市役所各課が参加し、支援方針等を検討しています。とりあげるケースによっては、上記以外の他機関に参加していただくこともあり、毎回新鮮なアイデアをいただいています。

今年度はこれまで住まい調整会議を5回開催し、11件のケースをとりあげました。

「家賃滞納から強制退去に至るケース」や「高齢や障害を理由に転居が難しいケース」、「外国人の居所探し」、「居場所を失った若者支援」、「高齢者のホームレス」など幅広い内容のケースを取り上げることができたと感じています。

住まいに関する相談は、家計、病気や障害、家族関係など様々な課題が絡み合っていることが多く、私たちだけでは解決が難しいです。住まいの課題を切り口に、たくさんの機関がこの会議に参加し、その度に心強い仲間が増えていると感じています。今後も仲間を増やしつつ、住まいに関する課題に取り組んでいきます。



住まい調整会議



大盛況のワークショップ

令和7年9月27日の「ふなばし市民まつり」に去年に続き2回目の出展をしました。事務所が、令和7年6月末に船橋商工会議所会館1階に移転し、市民まつりの会場に近くなったことから、場所の周知も兼ねて、事務所入り口とブースの2か所で出展することとなりました。事務所入り口では、相談者の皆様が作成した絵や工作などの作品を展示しました。事務所前を歩く市民の方が立ち寄ってくださり、鑑賞していただきとても好評でした。ブースでは、昨年人気だったワークショップを行いました。今年は、就労準備支援事業のメンバーや相談者の皆様が、カラフルな画用紙やコピー用紙を利用して作った手作りメモ帳を300冊用意しました。そのメモ帳の表紙に、ワークショップに参加したお子さんたちがシールやイラストで感性豊かにデコレーションし、世界で一つだけのオリジナルメモ帳を作成しました。こちらも好評で準備したメモ帳が午後の早い時間帯に無くなる状況でした。

事務所入り口とブースの2か所でスタンプラリーも行いました。スタンプを集めた景品としてさーくる農園で収穫した野菜をお配りし参加者の方々に喜んでいただきました。

私たち相談員も、市民の方々と直接関わる貴重な機会となり、とても楽しい時間となりました。社会とつながりにくい相談者の方々が、準備から参加することで、それぞれの強みを活かして様々なかたちで市民の皆様とつながりを持つことができた市民まつりとなりました。



市民まつり

9月

令和7年度「地域連絡調整会議」

令和7年11月6日に船橋市中央公民館講堂で、地域連絡調整会議を開催しました。今回は、『誰もが活躍できる地域』について語ろうをテーマに開催し、約70名の方にご参加いただきました。

さーくるからは、さーくる農園や居場所プロジェクトについて報告しました。また、今回は、地域で活躍の場やつながりを作っている登壇者の方から、それぞれの取り組みについて発表していただきました。最初に、船橋市社会福祉協議会のボランティアセンター所長河田孝司様より、船橋のボランティアの取り組みについて、写真を交えて説明していただきました。次に、船橋駅前ドトールコーヒーを運営している、株式会社ラダー代表取締役梶真佐巳様からは、「コーヒーで社会をあたためる」という理念のもと、高齢・障害を問わず、誰もが店舗で活躍できる場づくりの実践について、お話しいただきました。最後に、株式会社森興業代表取締役社長森哲也様から、ご自身も視覚障害があることで築いてきたつながりや、長年、企業として地域に貢献してきたことについてお話しいただきました。

後半は、来場した皆様に活躍の場に関する「わくわく」(楽しんでやっていること)と「もやもや」(あったらいいな。困ったな。)を記載していただき、登壇者も含めた全員で意見交換を行いました。意見交換を通して、このふたつは隣り合わせなのだ気づかされました。

さーくるは、「もやもや」を「わくわく」にしていけるよう、できることから皆様と一緒に取り組んでいけたらと思っています。



地域連絡調整会議

令和7年12月15日に、居場所づくり活動の一環として地域の相談窓口や住民の方と共同でクリスマス会を開催しました。地域の学生、若者を対象にしてエステシティ船橋の自治会がスペースを解放してくださいました。実際にこの日は近隣に住んでいる高校生や高校入学を目指している若者、一人暮らしをしている若者などが来てくれました。

数年前からこの自治会のスペースを地域の高校生、若者のために利用できないか地域の皆様と話し合いを重ね、初めて開催することができました。

参加者のみなさんは、クッキーをデコレーションしたり、毛糸を使ったクラフトを作成しました。それぞれ思い思いのデザインを表現してくれたので、参加者と一緒に皆でクリスマス会を作れたと思います。お腹が空くころに、さーくる農園で栽培した野菜を使ったミネストローネをみなさんに振る舞い大好評！お菓子をつまみながら、学生や若者が地域のみなさんと会話をしながら、交流する時間を作ることができました。

地域で学生や若者が自分の考えていることや思っていることを表現できる場があることは、普段の悩みを打ち明ける機会につながったり、大人と関わることで成長につながったりと感じています。これからも地域で若者を支える活動が広がっていくといいですね。



クリスマス会

12月